

まつひがし

# 松東遺跡

## 発掘調査

## 現地説明会



2012年9月15日 浜松市文化財課



## はじめに

浜松市では、東区天龍川町のJR天竜川駅北側で、松東遺跡の発掘調査を本年の6月から実施しています。調査区を3つにわけて来年の3月まで調査を実施する予定ですが、最初の調査区で銅鐸の破片が出土するなど重要な成果がみられましたので、現地説明会を開催することになりました。

## 松東遺跡と周辺の遺跡について

天竜川は、現在のような強固な堤防が築かれる前までは、時代によって流れを変えながら支流が細かく分かれており、その川の流れによって、平野部には島状の微高地と低地が形成されてきました。松東遺跡は、そうした微高地上に存在する遺跡で、弥生時代を中心とした遺構・遺物が発見されています。これまでに2度の調査がおこなわれていて、今回は3次調査になります。

### 【弥生時代の松東遺跡とその周辺】

過去の松東遺跡の調査では、弥生時代後期（およそ1900年前）の環濠集落（周囲に濠をめぐらせた集落）の跡が確認され、銅鐸の飾耳の破片が出土しています。今回の調査でも銅鐸の破片が出土しましたので、松東遺跡では2例目となります。

水田で米を作っていた当時の人々にとって、松東遺跡周辺の微高地は生活の適地であり、弥生時代後期の集落跡が多く確認されています（森西遺跡、越前遺跡、山の神遺跡など）。また、和田町木船ではほぼ完全な形で銅鐸2口が発見されているほか、森西遺跡では銅鐸をかたどった土製品が出土しています。

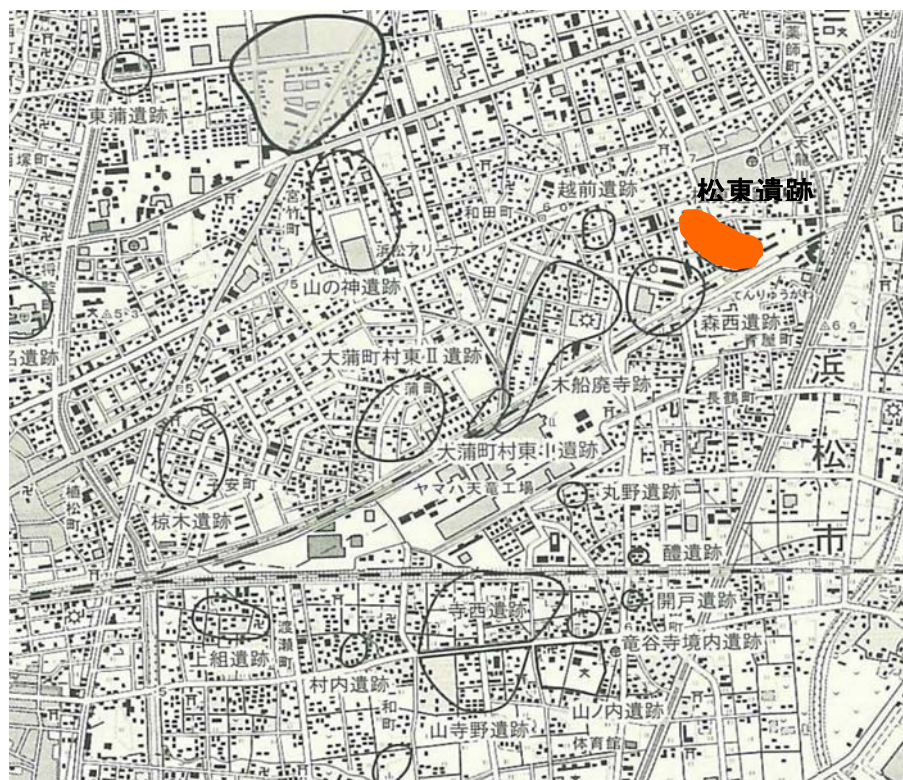
このように、集落跡が多くみられ、当時非常に貴重な物であった銅鐸や銅鐸関連製品が多く出土していることから、弥生時代の松東遺跡の周辺は天竜川平野における拠点的な地域だったと考えられます。

### 【奈良時代以降の松東遺跡とその周辺】

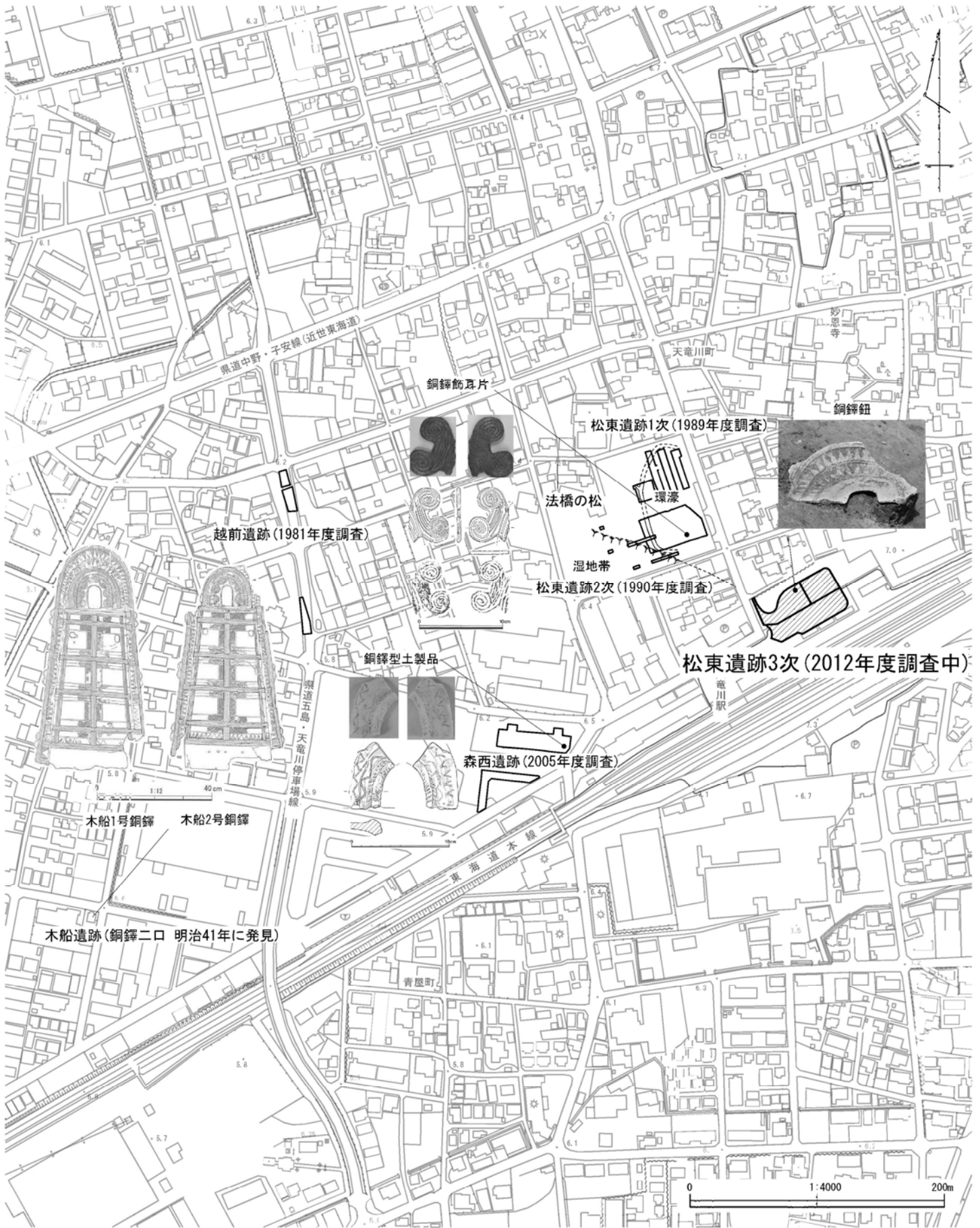
松東遺跡では、奈良時代以降（今からおよそ1300年前～）の遺構・遺物が確認されているものの、その性格はよくわかっていません。しかし、周辺の森西遺跡や木船遺跡、大蒲町村東Ⅰ・Ⅱ遺跡などでは、木簡や瓦などが出土しており、周辺一帯に古代の役所の施設があったと考えられています。

また、遺跡の約100m北東には、応長元年（1311）開創の日蓮宗妙恩寺が鎮座しており、往時には松東遺跡周辺も寺域に含まれていたと考えられています。

今後の調査の進展によって、こうした施設の一部が見つかる可能性があります。



周辺遺跡分布図



松東遺跡近隣の過去の調査位置および銅鐸・銅鐸関連品出土状況



## 出土銅鐸について

### 【浜松と銅鐸】

銅鐸は弥生時代のお祭りに使われた鐘で、弥生人にとっては最も大切に貴重な祭器です。浜松市は、日本列島内で銅鐸が分布する最も東の地域にあたり、市内では完全な形の銅鐸 20 点（所在不明 4 点を含む）をはじめ破片 5 点（松東例を含む）の出土が知られています。全国的に見ても銅鐸が数多く出土する地域といえるでしょう。



銅鐸の出土状況（滝峯才四郎谷遺跡）

### 【出土遺構の概要】

銅鐸の破片は、土坑とよばれる穴の中から見つかりました。銅鐸が出土した土坑（SK06）は長さ 1.7m、幅 1m、深さ 40cm ほどの大きさで、一緒に出土した土器から弥生時代後期（山中 3 式期、約 1900 年前）に掘られたものとみられます。



銅鐸破片の出土状況（松東遺跡 SK06）

銅鐸を埋めた土坑は集落の中心域に位置しています。完全な形の銅鐸は、集落から離れた土地に埋められることが多いのですが、この土坑は集落の内部にあり、立地環境の違いが明確です。土坑の埋め土には炭化物が数多く含まれることも注目できます。破片とはいえ貴重品である銅鐸の一部を埋めるにあたり、焚き火などを伴う儀式が行われた可能性が考えられます。

### 【出土銅鐸の概要】

出土した銅鐸の破片は、鈕（ちゅう）と呼ばれる吊り手の部分にあたります。幅 25cm、高さ 20cm ほどの大きさで重量は 1.18kg あり、本体が折れ曲がっています。また、飾耳（かざりみみ）と呼ばれる装飾部はすべて欠損しています。

銅鐸の破片は全国で 50 例ほど発見されていますが、長さ数センチ～10cm 程度の小破片であることが一般的です。松東遺跡の過去の調査で出土している破片はその典型例といえます。一方、この度出土した破片は、幅が 25cm ほどあり、銅鐸破片の中では全国最大級といえます。

この銅鐸破片は、飾耳が欠損していることに加え、鈕の本体が折れ曲がっていることから、故意に破壊されたことがうかがえます。本例は、これまで不明確であった銅鐸の破碎行為をさぐる上でも、重要な資料といえるでしょう。

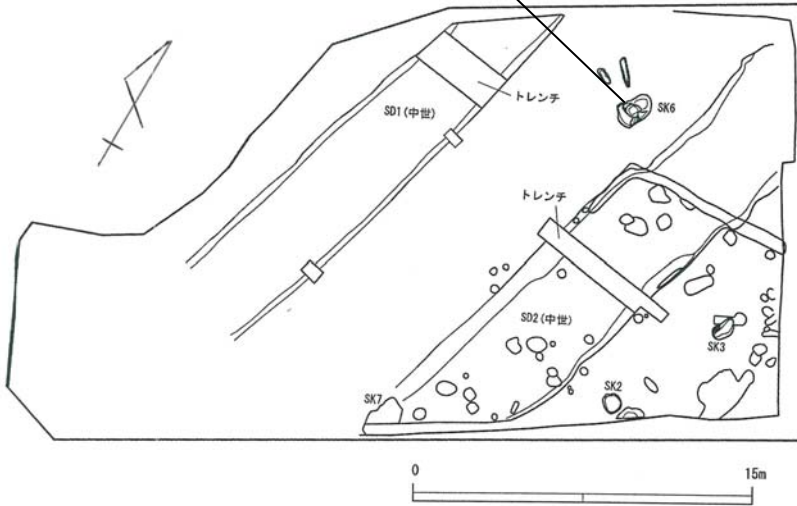
この銅鐸破片は鈕に刻まれた模様の特徴から判断して、突線鈕 2 式と呼ばれる型式に相当することが分かります。突線鈕 2 式の銅鐸には、大きく近畿地方に分布する近畿式と、愛知県や静岡県西部地方に分布する三遠式の 2 つの流派が知られていますが、本例は近畿式に属します。



近畿式銅鐸

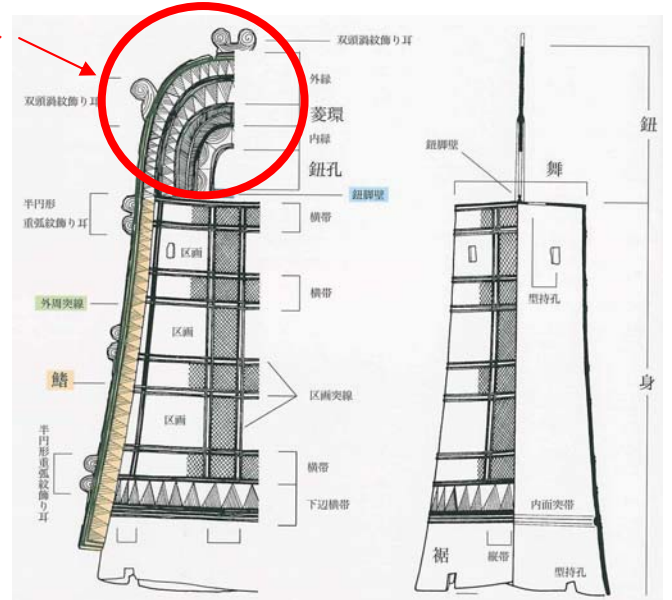
三遠式銅鐸

銅鐸破片出土位置



松東遺跡検出遺構

鈕の部分



銅鐸の部位名称

### 【松東銅鐸の意義】

銅鐸には穴を掘って完全な形で埋められるものと、破壊されてバラバラにされるもの二者があります。破壊される銅鐸は、突線鈕式の段階に多く、中でも近畿式銅鐸に特化してみられます。現在までに知られている近畿式銅鐸の破片は40例を越えますが、三遠式銅鐸の破片については、確実な事例が知られていません。近畿式銅鐸と三遠式銅鐸では、廃絶方法に違いがあったといえそうです。松東遺跡から出土した銅鐸破片も近畿式で、上述の傾向をさらに補強するものといえるでしょう。



銅鐸破片の詳細

破砕された銅鐸は、鑄潰して、銅鏃などの別の青銅製品に形を変えたと捉えられます。しかし、すべての銅鐸破片が青銅素材として再利用されたものではなく、飾耳などの一部は貴重品や装飾品として珍重されたことが知られています。今回判明した松東遺跡の事例によって、鈕などの大型破片も大切に扱われ、集落内に埋められることがあったことが判明しました。謎が多い銅鐸廃絶の実態をさぐる貴重な事例と評価できます。

### おわりに

今回、松東遺跡では2例目の銅鐸破片が出土したことで、弥生時代の和田地区周辺は天龍川平野でも主要な地域であるということが改めてわかりました。また、銅鐸の大型破片を集落内に埋納するという行為は全国的にも例が少なく、弥生時代における銅鐸破壊行為の意味を探る上で重要な発見といえるでしょう。





呼称・遺跡名	出土地	型式	所在・備考
1 荒神山1号	北区三ヶ日町釣荒神山	突線鈕3式	三遠式 東京国立博物館
2 荒神山2号	北区三ヶ日町釣荒神山	突線鈕3式	三遠式 奈良国立博物館
3 山田	北区三ヶ日町釣山田	突線鈕4式	近畿Ⅲ式 東京国立博物館
4 猪久保	北区三ヶ日町日比沢猪久保	突線鈕4式	近畿Ⅲ式 浜松市博物館
5 (伝)井伊谷		外縁付鈕	井伊谷で出土したかは不明確
6 小野	北区細江町小野堂道	突線鈕3式	三遠式 東京国立博物館
7 船渡1号	北区細江町中川船渡	突線鈕3式	三遠式 東京大学総合研究博物館
8 船渡2号	北区細江町中川船渡	突線鈕2式	三遠式 不明
9 (伝)コツサガヤ	(伝)北区細江町中川滝峯		不明
10 悪ヶ谷	北区細江町中川悪ヶ谷	突線鈕3式	三遠式 東京国立博物館
11 滝峯七曲り1号	北区細江町中川滝峯	突線鈕3式	近畿Ⅱ式 姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館
12 滝峯七曲り2号	北区細江町中川滝峯	突線鈕3式	三遠式 姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館
13 滝峯才四郎谷遺跡	北区細江町中川滝峯	突線鈕2式	近畿Ⅰ式 姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館
14 不動平	北区細江町中川不動平	突線鈕3式	近畿Ⅱ式 姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館
15 穴ノ谷	北区細江町中川天満平	突線鈕3式	近畿Ⅱ式 姫街道と銅鐸の歴史民俗資料館
16 前原Ⅷ	北区都田町前原	突線鈕2式	三遠式 浜松市博物館
17 (伝)三方原	(伝)北区三方原	突線鈕3式	三遠式 不明
18 木船1号	東区和田町木船	突線鈕3式	三遠式 東京国立博物館
19 木船2号	東区和田町木船	突線鈕3式	三遠式 東京国立博物館
20 ツツミドオリ1号	南区芳川町	突線鈕3式	三遠式 東京国立博物館
21 ツツミドオリ2号	南区芳川町		不明
(伝)浜松南方海浜(1)	不明	突線鈕式	近畿式 東京大学
(伝)浜松南方海浜(2)	不明	突線鈕式	近畿式 東京大学
梶子遺跡	中区南伊場町	突線鈕式	近畿式 浜松市博物館
松東遺跡(1)	東区天竜川町	突線鈕3式	近畿Ⅱ式 浜松市博物館
松東遺跡(2)	東区天竜川町	突線鈕2式	近畿Ⅰ式 今回出土

浜松市内出土銅鐸一覧

1~21: 完形 ①~⑤: 破片